

令和7年11月

令和7年度実施 全国学力・学習状況調査を終えて

作成：教務主任

令和7年4月、全国の第6学年児童を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。今年度は、国語科・算数科・理科の3教科における調査でした。

国語科においては、「知識及び技能」の観点の内、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の2点において、良好な結果となりました。本校では、資料を比較・整理して情報を読み取る学習を、国語科だけでなく総合的な学習の時間や社会科の学習と関連付けながら、教科横断的に取り組んでいます。また、学年に応じて古典や詩の音読など、日常的に伝統的な言語文化に触れる指導も行ってきた成果と考えます。また、「思考力、判断力、表現力等」の観点においては、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の全ての項目において、全国平均をやや上回る結果が得られました。国語科だけでなく、各授業においても、様々な方法で伝え合う学習を効果的に取り入れてきたことで、教科横断的に力を付けることができたと考えられます。昨年度の課題となった「読むこと」の内容については、大きな改善が見られました。学校全体で読書活動を重点指導事項に設定し、目標を定めて取り組んだこと、図書ボランティアの方々の継続的な活動が大きく関わっていると考えます。

しかし、過去の推移で見ると今年度は「話すこと・聞くこと」における設問の正答率がやや低い結果となりました。授業だけでなく、日常生活でも「正しい言葉、美しい言葉」を意識しながら、より一層充実した対話的な学びを提供できるよう努めてまいります。

算数科においては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点において、どちらも良好な結果を得ることができました。「数と計算」「図形」など、学習指導要領で提示された領域別に見ても、全項目において向上しています。昨年度の反省を生かし、①「デジタル教科書やタブレット等の意図的な活用を進める中で、具体化から抽象化へと授業改善を図ること」に注力したこと、②チャレンジタイムを活用し基礎的・基本的な内容の定着を図ったことで、良い結果が得られたと考えます。

理科においては、「思考力、判断力、表現力等」の観点で良好な結果が得られました。特に、「粒子」の領域（化学に関する分野）が高く、習得した知識を活用して予想を立てたり、関連付けて考えたりする力が育っています。反面、「生命」「地球」の領域ではわずかに課題が見られました。外に出て、自然に親しみながら実感を伴った学習ができるよう、授業改善に努めてまいります。

全体的には、短答式・記述式の正答率がやや低く、書いて伝える力に課題が見られます。無解答の多さから、問題を正確に読み取り理解する力も必要だと考えています。

質問調査では、家庭学習やICT機器の学習への活用に関する項目がやや低い結果となり、学びの習慣や学習の仕方を改善していくことが課題となっています。研修部を中心に学習環境を整備し、総合的な学力の向上を図っていきます。

今後とも、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

★ 令和7年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

国立教育政策研究所HPより (<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>)